

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年6月30日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103474
法人名	有限会社 にこやかライフ
事業所名	グループホーム さくら荘
所在地	鹿児島県鹿児島市坂之上七丁目38番56号 (電話) 099-284-2330
自己評価作成日	平成27年5月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成27年6月19日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 1 介護の質向上のため、定例会、朝礼などで自己啓発の必要性を説き、社内研修や外部研修の充実化を図っています。また、実践者研修や福祉科学生の実習の受け入れを積極的に行っています。
- 2 利用者様の「命と暮らしを守る」を目標に、災害時の避難訓練、防火訓練、設備の点検修理など定期的を実施しています。
- 3 桜、梅、すもも、みかん、今年は、ビルベリーやサクランボを植樹したり、花見の季節には広い芝生の庭に出て花見の食事会を楽しんで頂いています。花壇や菜園などを通して利用者様が、四季を感じる事が出来る住環境の維持に努めています。
- 4 地域の一員として、夏祭り、敬老会など 町内会行事への参加や高校生、中学生の職場体験学習を受け入れて、地域との交流に努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当ホームは木造2階建ての2ユニット事業所である。周辺には大学や銀行・クリニック・温泉・コンビニエンスストア・バス停などがあり、利便性の高い環境である。
- ・町内会に加入し、地域行事や清掃活動などに積極的に参加している。事業所行事の運動会や演奏会などに多くの地域住民や家族が参加するなど日常的に交流している。
- ・利用者個々人の習慣や楽しみを把握し、園芸や掃除・パズルなど力量を活かしながら、その人らしい生活ができるように支援に取り組んでいる。庭の桜の花見やすもも・きんかん・ブルーベリーなどの収穫も楽しんでいる。
- ・災害対策として、年2回消防署の指導のもと災害訓練を行っている。近隣の住民に聞こえる火災通報装置を設置している。
- ・代表者や管理者は職員育成に力を入れ、資格取得に向けた支援も行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員採用時、日々の申し送り時、社内定例会などの機会を捉え意識付けを行っている。ホーム玄関や各階のミーティングルームに運営理念を掲示している。朝礼時に全員で斉唱している。理念を共有し、介護に活かされている。	理念は、玄関やミーティングルームに掲げ、毎日の朝礼のとき唱和している。申し送りや定例会などで理念について話し合い実践に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	石塚町内会行事（夏祭り、公園清掃、夏季、冬季の夜回り等）に積極的に参加している。谷山夏祭りにグループホームが、地域の一員として参加している。地域の敬老の日のお祝いに御利用者様も参加している。	町内会に加入し、回覧板等で地域との情報のやり取りがある。夏祭りなどの地域行事や敬老会に出席して集合写真を頂いたりしている。清掃にも参加し散歩や買い物の際には挨拶や会話を交わし、野菜などもらったりしている。子ども会との交流や実習生・ボランティアの受け入れなども行い地域との交流が盛んに行なわれている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	石塚町内会、青壮年部会、むつみ会、婦人部会などで、機会を捉えて地域密着型サービスの意義と認知症への理解を深めている。認知症、高齢者介護の相談窓口のPRに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>委員には、施設運営状況報告やメディア等の福祉状況や課題について話し合い意見を活かして相互理解に努めている。定例会で報告され、職員も話し合いの内容を把握してサービス内容に活かしている。</p>	<p>会議は定期的開催している。事業所の行事やヒヤリハット・外部評価の報告を行い、国の情報や介護について話し合い、避難訓練も会議と同日に行う時もある。参加者から意見を貰って運営に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>鹿児島市担当窓口に、介護事故、相談・苦情等法令違反がない様に相談し、指導を受けている。又運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加協力を頂いている。</p>	<p>市の担当者には日頃から電話や直接出向いて事業所の実情報告・介護保険・ヒヤリハット等の報告や相談を行い、情報を交換してアドバイスを貰っている。地域包括支援センターとは運営推進会議を通して協力関係ができています。介護相談員も受け入れ、サービス向上に繋げている。市主催の研修会にも参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束についての社内研修を実施している。身体拘束防止マニュアルを作成し、入居契約時に説明を行い、適正な運用体制が取れている。月1回身体拘束廃止推進委員会を行い職員は定例会で内容を把握している。</p>	<p>身体拘束防止マニュアルを作成し、身体拘束廃止推進委員会を毎月い、事例を出して身体拘束について学び職員の質向上に取り組んでいる。身体拘束のないケアに取り組んでいる。言葉による拘束についても日々確認し配慮している。日中は玄関の施錠をせずに職員間の連携で自由な生活を支援している。家族へも、防止マニュアルを活用して必要時に説明を行なっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止について社内研修を実施している。身体的虐待防止や言葉による精神的虐待防止について定例会や家族会等を通して意識の啓発を実施している。月1回身体拘束廃止推進委員会を行い 職員は定例会で内容を把握している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見人制度についても勉強会で取り上げ理解を深めている。地域包括支援センター主催の「施設職員の為の制度説明会」などにも参加して理解を深めている。成年後見人が選任されたご利用者が、現在1名おられる。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居手続きチェック表に基づき、運営規定、契約書、重要事項説明書や事故防止委員会等の設置状況、医療連携体制等の同意を必要とするもの等、運営者と管理者が詳しく説明している。退去の条件や利用料等トラブルが予測される事項は、特に時間を掛け理解を得て契約している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者は、年1回、介護相談員の訪問で相談する事が出来ている。ご家族には、入居契約時に相談苦情体制の説明や玄関の掲示等でご家族の理解を得ている。運営推進会議や家族会で意見交換を行い、相談苦情処理委員会、定例会等で解決策等を検討してその結果をご家族へ回答すると同時に職員は、介護のレベルアップに繋げている。	利用者からは日々の生活の中や介護相談員への相談の中で思いを聞き記録している。家族からは面会や運営推進会議・家族会・家族運動会などで出された意見や要望等を職員で話し合い運営やケアに反映させている。第三者委員も掲示し、相談や苦情が言いやすい体制を作っている。相談苦情処理委員会の報告も機会あるごとに報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営推進会議、事故防止委員会、身体拘束廃止推進委員会、相談苦情処理委員会やケア会議の内容は、朝礼や申し送りノートで報告されている。また、定例会、年2回の自己啓発シート作成時、懇親会等で職員の意見や提案を求め反映させている。	代表者や管理者は各委員会や全体会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映を図るよう心がけている。相談事は個別に聞き適切にアドバイスをしている。年2回自己啓発用のシートも行っている。懇親会で気軽に話しができるようにしている。OJTに力を入れて積極的に実践している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	資格取得の目標を協議し、挑戦している。平成24年・25年度は、2名介護福祉士と1名の介護支援専門員に合格している。適正な給与体系と人事評価で処遇し、定昇の実施や中小企業退職金制度への加入、有給休暇の取得推進等労働意欲を高める様に努力している。又21年度より介護職員処遇改善交付金を受け賃金改善に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>H22年3月に管理者を新規採用し、豊富な経験と知識を活かし、自己啓発とOJTを積極的に実践している。又研修計画に基づき社外研修への積極的な参加及び社内研修を実践している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>平成17年より谷山地区GH勉強会が設立しており、施設職員や専門の講師が指導にあたり共に学び交流している。また各施設の見学会を行っている。 谷山夏祭りに、GH勉強会の踊り連メンバーで地域の行事に参加し、市民へのGHアピールとネットワーク作りに活かしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にさくら荘に来訪して頂き、本人の意志やご家族の想いを良くお聞きし、担当介護支援専門委員や施設の情報提供書を参考に、適切なアドバイスを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めていることを理解し、さくら荘としてどのような対応出来るか、事前に話し合っている。ご家族の苦労やサービスの利用状況、経緯等、ゆっくりとお聞きし、介護計画書に記載して、共有ケア確認表を掲示することで、次の段階の相談に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にさくら荘に来訪して頂き、本人の意志やご家族の想いを確認し、適切な入所の提案と必要に応じた他のサービス機関の紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	穏やかで楽しい生活が送れるように声掛けや場面作りをしている。職員はカンファレンスを通して共有ケアを用い、良い関わりが持てる様に確認している。「してあげている。」という意識を持たずに共に支えあえるような関係づくりに努めている。ご本人の想いを大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と一緒に行事などを楽しまれ、情報を共有して同じ想いでケアを行っている。面会時は情報交換を行い共にご本人様を支える関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚の方やご友人の来訪があった時には、居室などでご本人とゆっくり談笑できる環境づくりを心がけている。 外出・外泊を希望するご利用者様は、ご家族と連携を取り、支援している。屋外食を楽しんだり、中学生の職場体験等の交流、セラピー犬もご利用者を和ませている。また、昔話など思い出の再編を図っている。	誰でも気軽にホームへ立ち寄れる雰囲気を作り、馴染みの人や親戚などの訪問が多い。関係者が訪れたときは居室で楽しく過ごせるようにしている。電話や手紙の取次ぎなども行い、継続的關係が途切れないよう働きかけている。馴染みの理美容院の利用や外食・外泊・買い物・墓参など、家族の協力を得て支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の工夫をして互いに会話が持てたり、ご利用者が職員に声かけして色々教えて下さるような環境づくりが出来ている。また個別にお話を聞いたりしてお互いの関係がうまくいくようにフォローしている。日々の食事やお茶時に一緒に会話に入り、調整役として支援している。1階2階のご利用者の交流の機会を茶話会を通して行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や施設入所により退所されたご利用者のご家族の不安や困り事の相談には、いつでも応じることが出来るように努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者の会話や表情から想いを汲み取り、希望や意向が実現できるように努めている。困難時には、ご本人やご家族に状況報告を行い、希望や意向を詳しく聞き取りを検討している。	日常の会話を大切にしている。言葉やしぐさなどから思いや意向を察知している。若い頃の話しになると話しがはずみ生活歴を知ることができる。コミュニケーションが困難な利用者については、筆談などもまじえながら、表情やしぐさ・家族からの情報で、「共有ケア確認表」を活用し、本人中心の支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談契約時や入居後、ご家族来訪時に聞き取りを行っている。過去の認定情報やフェースシート活用、日常会話の中から過去の暮らしぶりの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、それぞれの過ごし方を見守り把握している。出来ること、わかる事を言動や行動から感じ取ったり気付くことで職員間で情報を共有して把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご家族来訪時に聞き取りを行ったり、担当職員がセンター方式によるアセスメントを作成し、看護師や医師からの情報も取り入れて担当者会議やカンファレンスを開催して介護計画を作成している。また、朝礼時一人ひとりの具体的状況を把握することで介護計画に活かしている。</p>	<p>本人や家族の意向を確認し、担当者会議で話し合い、主治医や看護師の意見も取り入れ、個々に応じた介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>生活記録（食事・水分・排泄等身体的状況）やケース記録（暮らしの様子・本人の言葉や行動・職員の気づき・ご利用者の状態変化）を個別に記録し、職員は情報共有しながら実践や介護計画に活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人やご家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は、柔軟に対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>民生委員には、運営推進会議や入居相談の為の来所等、協力を頂いている。ボランティアによる踊りや演奏会等継続して協力を頂いている。消火訓練・避難訓練等は、南消防署の協力を頂いている。中学生の体験学習の受け入れを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業所の協力医、ご本人の今までの主治医継続についてご本人やご家族と一緒に協議して決めている。又、それぞれの専門医との協力関係が出来ている。可能な範囲でご家族の入退院援助、通院介助の協力を得ている。ご家族対応の受診には、医療報告書を作成してお渡ししている。</p>	<p>本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診は家族同行となっているが、不可能な場合は、その結果を家族に報告している。協力医の訪問診療もある。緊急時の対応などには、連携を取りながら適切な医療を行っている。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>正看（2F）と準看（1F）を配置しており、常にご利用者の健康管理や状態変化に応じた支援体制を執っている。看護師と医師との連携も取れている。又緊急時の体制も機能している。ご家族には、面会時には状況報告がなされ、受診時には、状況報告と報告書を作成して提出している。状況によっては、医師との面談説明が出来るように取り計らっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は生活記録等を持参して支援方法に関する情報を医療機関に提供している。入院期間中は職員が頻りに訪問し、ご本人やご家族への支援を行い速やかな退院に結び付けている。入退院時には、ご家族と情報を共有し、支援を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末ケアに対する指針に沿って、ご家族、医師、看護師を交えて話し合いを行い、状態の変化について話し合い、ご家族にその内容の報告をしている。ご家族の気持ちの変化やご本人の想いに注意を払い看取った経験を今後にも活かせる様にしている。現在看取りまでの状況は無い。</p>	<p>契約時に重度化や終末期に伴う対応の指針を説明し同意を貰っている。状況変化に伴い本人や家族の意向を確認し、主治医や関係者と連携して家族と方向性を共有できるよう取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>南消防署の応急手当の研修に参加し学習している。後日マニュアルを利用して定例会等で全職員が学習している。常に心がけておく必要があるのでポスターでの啓発を行っている。</p>	/	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>南消防署の協力を得て、年2回、消火避難訓練をご利用者も一緒に参加し、実施している。月1回の定例会を通して災害時のマニュアルや器具の確認をして、認識を高められるように努めている。また 火災報知機で 地域住民へ知らせる事が出来る。</p>	<p>年2回消防署の指導のもと、昼夜間想定 of 消火避難訓練を実施している。訓練には運営推進会議の参加者の協力もある。スプリンクラーや緊急通報装置・地域住民へ知らせる火災報知機も設置されている。災害時の食糧等の備蓄もある。毎月、器具の点検や避難路の確認を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝礼、定例会等の折、職員の意識向上を図ると共に、日々の関わり方（言葉使い、声掛けなど）をカンファレンス等を通して点検し、ご利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。ご利用者が穏やかに過ごせる様に言葉使いには特に注意を払っている。	日々の関わりの中で、利用者の尊厳とプライバシーを保持する言葉かけや対応に留意している。人格を尊重してフィジカルロックやスピーチロック・ドラッグロックなどに注意して職員同士気づいたときは注意し合っている。成年後見制度を活用している利用者もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者が決定するのではなく、いろいろな選択肢を準備してそれぞれが、自分で決める事が出来る場面作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調やその日、その時の気持ちを尊重し、散歩、買い物、ドライブ等、個々の想いや状態に配慮しながら柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	2ヶ月に一回、訪問理・美容を利用している。着替えは、ご本人の意思で決めて頂き、自己決定の出来ない方には、職員が声掛けして一緒に行っている。ご本人の望む店がある時には対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、栄養面に配慮しながら、なるべくご利用者の希望を取り入れるように工夫している。野菜切りや盛り付け、配膳・下膳等、節分の巻き寿司や餃子作り等をご利用者と共に行い、職員も同じテーブルで楽しく食事が出来る様に努めている。季節を感じる様なツワの皮むきや竹の子の下ごしらえ等一緒に食事の準備をしている。	利用者の好みを聞いたり栄養にも配慮しながら楽しく食事ができるようにしている。旬の食材を使い年間の献立を立てている。利用者の個々の力を活かしながら準備や後片づけを職員と一緒にやっている。おやつ作りや季節の行事食など食事が楽しみなものになるよう工夫している。口腔ケアもしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量、食事形態、体調に配慮し、肉、魚、野菜をバランスよく取り入れ、献立は、ご利用者の希望や内容に工夫を凝らした飽きない献立に努めている。水分量は、1日1000ml 1 摂取を目標にOS1やノンカロリーシロップ、牛乳、ヨーグルト等を利用し声掛けしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	提携歯科医の協力を得ながら、一人ひとりの口腔状態を把握し、その人に応じた口腔ケアを行い、肺炎予防に努めている。食後の歯磨きの声掛けや義歯洗浄などの支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間や習慣を把握して、自然にトイレに行く事が出来るような声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄自立支援を行っている。歩行困難なご利用者には、居室でポータブルを使って頂き、気分よく排泄できるように配慮している。失禁時は、本人のプライドを傷つけないように支援している。	一人ひとりの排泄パターンや自尊心に配慮しながらトイレでの排泄を大切にしている。繊維質の多い食材や水分摂取・運動などを工夫して、自然排便と排泄の自立を支援している。排泄記録をもとに一人ひとり把握してタイミングを見計らって周りに気づかれないように工夫し自立支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄記録やご利用者への聞き取りと便器の確認を行っている。運動の出来ないご利用者や少ないご利用者は、医療との連携で下剤の処方を受けている。繊維質の多い食材や水分補給、散歩、家事活動等身体を動かす機会を設け、自然排便が出来る様に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	ご利用者の希望を聞きながら、一人ひとりのその日の体調やペースに配慮し、週3回の入浴の順番、時間、回数を決めて、ゆっくり入浴できるように支援している。洗身等ゆっくり声掛けし、楽しく入浴して頂いている。体調の状態にも気配りしている。	入浴は基本的に週3回であるが、体調や希望に添った入浴ができるように対応している。入浴を拒む利用者には声かけや順番を変えるなど職員間で連携し、状況改善に努め、無理強いはしないようにしている。足湯も楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	日中活動を促して生活リズムを 整えるように庭の散歩などを 行っている。一人ひとりの体 調、表情、希望に添った安眠や 休息の支援を行っている。医療 と連携を行いながら眠剤などの 処方を受けている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的 や副作用、用法や用量について理 解しており、服薬の支援と症状の 変化の確認に努めている	薬効、用法、用量を把握し、与 薬確認をし、生活記録表に記録 して誤薬事故防止に取り組んで いる。副作用については、下 剤、睡眠等について、その都度 変化の確認をしている。薬の管 理は個人別にしたり色分けにし て誤薬予防にも努めている。服 用時は、本人の前で名前と時間 を声出し確認し、服用の確認を 行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ご せるように、一人ひとりの生活 暦や力を活かした役割、嗜好品 、楽しみごと、気分転換等の支 援をしている	ご利用者一人ひとりの今したい 事や出来る事を尊重し、体調に 配慮しつつ、食事作りや園芸、 洗濯物たたみ、掃除、塗り絵、 将棋、オセロ、園庭昼食会やお 茶会、外食等楽しい時間を持 てるような支援を行っている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>ご利用者の希望や体調に応じて、ドライブやショッピング、日々の散歩や園庭でのレクリエーション、弁当持参の花見、外食、菜園や果樹の収穫で季節の移り変わりを肌で感じて頂いている。鹿児島国際大学の散歩花見など計画を立てて事故の無いように留意しながら支援している。ご家族への参加も呼び掛けている。</p>	<p>天気や体調がよければ庭に出てレクリエーションを楽しんだり近隣を散歩して近所の人と話しこんだりしている。個々人の状況や希望に応じてショッピングやドライブに出かけている。計画を立てて弁当持参での花見や動物園・初詣等、家族の協力での外出や外食・墓参にも出かけている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族と話し合い、事業所で預かり毎日1階2階職員が金額の実査を行い管理している。職員と一緒に買い物に行き、お金がある安心感や満足感を持って頂ける様に支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話を希望される方には、事務所の電話をご利用して頂いている。時には職員が一部対応して支援している。手紙が届いたらすぐにご利用者にお渡しし、また、読んで差し上げたりして支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>高齢者は、環境に敏感に反応される。ドアの開閉音や物の倒れる音、職員の大声、大笑いに気を付けている。季節感を感じる花やご利用者手作りカレンダー、パズル等、飾り物を利用したりカーテンや照明も吟味し、家庭的な雰囲気作りに役立てている。毎朝の掃除にご利用者も参加し、ご利用者の作品コーナーも設けたりして、快適な住環境の維持に努力している。</p>	<p>共用空間は換気や音や採光など配慮し刺激がないように安心できる空間作りに取り組んでいる。掃除が行き届き、清潔である。調理するところも見える位置にある。壁には利用者の作品や行事の写真・正月に撮った着物姿の写真などが飾られている。桜の大木も玄関前にあり春は花見を楽しんでいる。ホールから眺める庭には、すももや梅・きんかんなどが植えられ、季節を楽しみながら居心地よく過ごせるような工夫がされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テレビ前のソファーやフロアの椅子、リビングテーブル等の椅子、リビングテーブル等、各人好みの場所を確保している。ソファーの位置も季節やご利用者の希望に応じて変更している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>広い窓からは近隣の家並みや庭が見え、居室には馴染みの小物や季節ごとの切花、本人手作りのカレンダーや誕生日メッセージ、季節の工作物、家族の写真などを飾りその人らしい個性のある空間作りを工夫している。</p>	<p>居室は開放的で明るい。ベッドやクローゼット・チェストが備え付けである。本人や家族と話し合っって寝具や位牌・椅子・小物・写真など使い慣れた物や家族の思いが伝わるものが持ち込まれ、レクリエーションで作った毎月のカレンダーや作品も飾られて、安心して過ごせるよう配慮されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各居室入り口に目線の位置で名札や写真を掲示している。3ヶ所の「便所」の名札のある共用トイレを一人ひとり本人の使い勝手の良いトイレを利用している。リビング近くの洗面台は、センサー付き蛇口でスムーズに手洗いやうがいができる。食事のテーブルの位置も人間関係を考慮しながら決めている。</p>		

V アウトカム項目 1階

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない